琴高　人権・同和教育だより（３学期号）

右のポスターは，昨年度に発行した人権・同和教育だよりでも紹介させていただいた，香川県・香川県人権啓発推進会議が作製した昨年度の香川県人権啓発ポスターです。県内のさまざまな場所で掲示されているため，実際のポスターをご覧になられたことがある方も多いのではないでしょうか。このポスターは，近年注目される「マイクロアグレッション」に関するものです。昨年度の人権・同和教育だよりでは，「マイクロアグレッション」の直訳を《小さな攻撃》と紹介しましたが，「マイクロアグレッション」がその当事者に与える影響は決して小さなものではないため，最近では《日常的な差別や身近な差別》と訳されることが多くなりました。社会の力関係によって少数者・少数派もしくは弱者の立場に属するマイノリティに対する，***相手を差別したり傷つけたりするつもりはないが，育ってきた環境や周囲の影響による無意識での偏見***が，この問題の根底にはあります。

右の QR コードを読み取っていただくと，このポスターの〈シーン説明〉や，〈今回の啓発でめざしたこと〉，〈今回の啓発をご覧になる皆様へ〉など，ポスター制作側の意図やねらいが記載されたホームページに移動します。ご一読ください。ここでも記載されていますが，「マイクロアグレッション」の啓発の際には，賛成と反対の両方の立場から意見が出ることが珍しくありません。このうち反対の立場からは，《こんなこと言われたら何も話せなくなる》《自分は全く差別だとは思わない》などの意見がよく見られます。実際，このポスターが掲示されたときにも，ＳＮＳなどを中心にさまざまな意見が多く寄せられたようです。

香川県総務部
人権・同和政策課
ホームページ

「マイクロアグレッション」に関する批判的な意見ですが，これに関してはつぎのようなことが言われています。まず，これらの批判的な意見が持てるのは，自分が社会の力関係によって多数者・多数派もしくは強者の立場に属するマジョリティの立場であることが多く，「マイクロアグレッション」に苦しむ機会が少ないからであると。これは，いわゆるマジョリティ特権と言われるもので，***自分が経験していないから，自分がそう感じないからといって，相手も同じ意見であるとは限りません***。「マイクロアグレッション」を減らすためには，自分のものさしで相手の気持ちや考えをはかるのではなく，客観的な見方から，自分の言動が相手を傷つけていないか考えることが大切です。また，自分は差別や偏見をする人間ではないから自分の言動が相手を傷つけることはないと過信するのも危険です。冒頭で述べたように，「マイクロアグレッション」はしばしば自分の“無意識”から引き起こされます。相手が“無意識”だということを言われた側が気付くことも多いからこそ，それを指摘できず，そのダメージが蓄積されていきます。そういう意味でも，「マイクロアグレッション」についてしっかりと学び，“無意識”を意識できるようになる必要があります。

さて，ここまで「マイクロアグレッション」の問題点を述べてきましたが，このように言われると，じゃあ何を話したらいいんだと全く分からなくなってしまう方もいるかと思います。ですが，そのように***自分の言動を考えながら相手と関わることが，まずは大切な第一歩***かと思います。そして，「マイクロアグレッション」という概念を社会の共通の課題として，《さっきの発言は大丈夫でしたか》と聞けたり，《実はいやな思いでした》と何気なく答えられたりする社会になればいいなと思います。ちなみに，このポスターは令和６年度人権啓発資料法務大臣表彰のポスター部門で優秀賞となりました。現代社会の課題に踏み込んだポスターであったことが評価されたのかと思います。

長文になりましたが，今回伝えたかったことは，お子さまと保護者の方とで，自分の考えや意見を語りあい，そのなかで，もしお互いの考えや意見が別の立場の人を傷つけてしまっていることが分かれば，また逆に，周りの何気ない言動に傷ついていることが分かれば，それについてゆっくりと話をしてもらいたいということです。身近な存在だからこそ，お互いの考えや意見も打ち明けやすいし，それを正したり，また，支え合ったりすることもできるかと思います。この人権・同和教育だよりをお子さんと一緒に読んでいただき，そのような時間をご家庭で取っていただければ，人権・同和教育部としては幸いです。最後になりますが，今年度は本校の人権・同和教育活動にご理解・ご協力をいただきまして誠にありがとうございました。次年度もどうぞよろしくお願いします。

３学期の人権・同和教育ホームルーム活動

【１年生】『**アイヌ問題を学ぶ**』

アイヌ語にふれ，北海道の地名や私たちの身近な言葉にもアイヌ文化が息づいていることを学ぶとともに，アイヌの伝統文化を現代の生活と融合して「新しい文化」として未来に伝え残そうとする取組について知った。また，アイヌ民族の歴史について学び，アイヌ民族が受けてきた差別や現代も続くアイヌにルーツをもつ人への差別の実態，差別解消への取組などを理解し，差別に対して自分がとるべき行動についても考えた。

＜生徒の感想（一部抜粋）＞

- ▶ *昔のことだと思っていたが，ごく最近の話で驚いた。身近な問題として意識していきたい。*
- ▶ *今も差別に苦しんでいる人たちはいるだろうし，まだまだ私たちにできることはあると思う。*
- ▶ *アイヌの人たちの声を無視してきたことは，政府だけの問題ではなく私たちの問題だと感じた。*
- ▶ *今までアイヌの人たちのことは全然知らなかったけれど，今日の学習で知ることができてよかった。*

【２年生】『**部落差別を学ぶ**』

差別により，人の命だけでなく，伝統や文化，誇りまでも捨てなければならない現実があったことを知り，同情や哀れみでは差別はなくならないことを学んだ。また，被差別部落で培われてきた豊かな文化や温かな人間関係に気付き，自分たちが差別をなくすためにどのような行動が取れるのかを考え，それが実践できるように意識した。

＜生徒の感想（一部抜粋）＞

- ▶ *差別をなくすためには，差別を知らない人にも伝え，命や文化を奪うことがないように伝えないといけない。*
- ▶ *友達が差別発言をしていたならば，止めたり注意をしたりして，自分の周りから差別をなくしていく。*
- ▶ *まず自分が差別をしないことが大切だと思った。少しでも差別になっていないかを考えて行動や発言をする。*
- ▶ *SNS などで書かれていることすべてを信じずに，自分の意見を強く持ち，周りの意見に左右されないようにしたい。*